

「知のエコロジカル・ターン」と「哲学実践」 環境哲学と哲学対話による共生環境の創生へ



こうの てつや
河野 哲也

立教大学 文学部

■ 主な研究テーマ

- ・環境と人間社会の共生
- ・対話による生涯発達

■ 関連キーワード

哲学・倫理学: 現象学、心の哲学、環境哲学、教育哲学
哲学実践: 子どものための哲学、哲学カフェ、企業内哲学対話

■ 主な採択課題

- ・基盤研究(A)平成24～28年度(配分総額: 52,130千円)
課題名: 「知のエコロジカル・ターン: 人間的環境回復のための生態学的現象学」
- ・挑戦的萌芽 平成25～27年度(配分総額: 3,640千円)
課題名: 「哲学実践」という分野の確立に向けて」

① 科研費による研究成果

■ 基盤研究(A)「知のエコロジカル・ターン」

人間性は環境とのやりとりの中で発展する。人間をつねに環境との相互作用として理解する環境哲学の視点に立ちながら、自然と持続可能な関係を結ぶと同時に、すべての人に開かれている環境、すなわち、自然と人間同士が共生できる環境をデザインするための基礎理論を構築する。

— 右下中央はその成果の一環としての著作:『知の生態学的転回』(3巻、東大出版)と河野哲也著『境界の現象学』(筑摩選書)

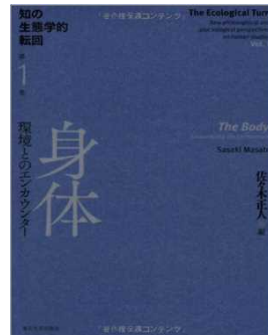
■ 挑戦的萌芽「哲学実践」という分野の確立に向けて」

哲学的対話を社会の中で実践し、市民社会における諸問題の解決、社会交流、教育として役立てる実践活動を行う。

— 左下写真は、小学四年生との哲学対話。テーマは「ハゲ」と呼ぶのは差別か」。



「ハゲ」と呼ぶのは差別か? 小学校四年



② 当初予想していなかった意外な展開

■ 二つの科研費研究融合の可能性

左記の二つの研究は、当初、独立したものとして研究してきた。しかし、環境哲学は、人間と自然が共生できる環境をデザインすることを目的としており、そのデザインがどのようなものであるべきかは、その地域に住む人々の間で深い相互理解に基づいた合意形成が求められる。したがって、共生環境のデザインは、地域創生を目指した哲学対話によって生み出されるのである。

— 右下写真は、本研究に協力要請があった広島グローバル・ハイスクールでの地域創生対話の風景。左下は、毎日子ども新聞での誌上哲学対話の書籍化



③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- ある地域や学校、職場などで哲学対話を実践し、それによって得られた共通の価値、ビジョン、合意にもとづいて、あらゆる人々が包括的に参加する持続可能な社会をデザインする可能性を示す。
- 対話を通じた生涯発達の可能性を示す。